

# 安倍氏襲撃の波紋

ジャーナリスト

泉 洋海

参院選の投開票を2日後に控えた7月8日、安倍晋三元首相が街頭演説中に銃撃されて亡くなった。民主主義への挑戦、言論の自由への弾圧かと思われたが、容疑者の供述から政治信条への反発ではないことが分かる。岸田文雄首相は早々に安倍氏の国葬を決めたが、野党は反発。悲劇的な死から神格化され、国民に悼む気持ちまでを強制しかねない政治の雰囲気には危うさもはらむ。



民主主義への挑戦、言論の自由への弾圧かと思われたが、容疑者の供述から政治信条への反発ではないことが分かる

氏が銃撃された奈良市の近鉄大和寺駅前、現場を見ようと訪れた人らでごった返した。そこは近鉄百貨店もある駅の北口ロータリー。安倍氏は台形状に囲まれたガードレールの内側で、自民党候補者の応援演説をしていた。

ガードレールの前は横断歩道で、立ち止まって拝む人も。近くの交差点に設けられた献花台には、花束を持った人たちの長い列ができていた。若い人が多かったのが印象的だ。花は次々と積み上げられ、献花台の後方では、係りの人があふれる花を袋に詰めていた。駅ビルの店舗では、花屋が急ぎよ、献花用の花束を売っていた。供えられた花束は後に近くの寺で花供養されたという。

## 弔い合戦

安倍氏は8日午前11時半ごろ、応援演説中に後方から撃たれた。首と



近くの交差点に設けられた献花台には、花束を持った人たちの長い列ができていた

胸付近から血を流し、心肺停止状態で病院に搬送されたが、午後5時3分に亡くなった。夜に記者会見した搬送先の奈良県立医科大学付属病院の医師によると、首に2カ所あった銃創は心臓にまで達していた。心臓の損傷が激しく、救命は厳しい状況だったという。20人以上で開胸手術に当たり、止血や大量の輸血をしたが、心肺機能は再開しなかった。

発砲した男は、現場で取り押さえられた。元海上自衛隊員の山上徹也

容疑者(41)で、容疑を認め、「安倍首相を狙った」と話した。銃撃を見た記者によると、山上容疑者は、マイクを握る安倍氏の後方約5メートルの車道に現れ、ためらう様子もなく黒い物体を掲げた。その直後に轟音が響いた。

病院には安倍元首相の妻の昭恵さんが駆けつけたほか、夜になって菅義偉前首相や安倍派の西村康稔衆院議員らも入った。

事件が起きたのは参院選のさなかにあった。民主主義の根幹である選挙期間中に、応援演説をしていた元首相が銃撃された事件は、世界中を震撼させた。この日の午後は、ほとんどの政党が街頭などでの選挙活動や応援演説を取りやめた。だが、「暴力には屈しない」と翌日の選挙戦はほとんどの候補が再開した。

選挙戦最終日となった9日、自民党の街宣車からは「安倍さんの遺志



悲劇的な死から神格化され、国民に悼む気持ちまでを強制しかねない政治の雰囲気には危うさもはらむ

を継げるのは、この人しかいない」などと訴える声が聞こえ、甲い合戦の様相に。「安倍さんが天から見守っている」と語りかけ、沿道の人たちから大きな拍手を受けた。

参院選の結果を受け、共同通信社が実施した緊急世論調査で、安倍氏の襲撃事件が投票行動に影響したかを尋ねたところ、15・1%が「影響があった」と答えた。「影響がなかった」は62・5%だった。

襲撃事件の2日後が投票日で、既に期日前投票を済ませたり、投票先を決めていたりした人も多かったと思われる。事件を受け候補者らが発した「民主主義を守る」「暴力に屈しない」というメッセージから、「投票に行かなければ」と考えた人も多かったのではないか。一方で「影

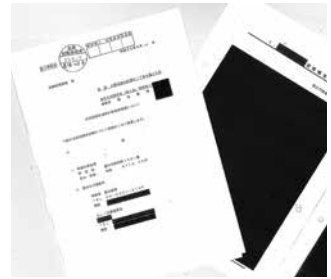
響されてはいけない」と思った人もいただろう。

### 国葬を決断

自民党は参院選で改選過半数の63議席を確保し、与党で76議席の大勝となった。岸田首相は自ら衆院を解散しない限り、2025年夏まで選挙がない「黄金の3年間」を得た。政権発足時の支持率を下回ったことのない岸田首相は、参院選勝利で自信を付け、自らの決断力を印象付けようとしている。

安倍氏の国葬もその文脈にあったようだ。岸田氏は当初から、非業の死を遂げた安倍元首相を丁重に送りたい、との思いがあったという。ただ、戦後、首相経験者で国葬が営まれたのは吉田茂氏だけ。戦前の国葬令は廃止されており、国葬には法整備が必要、との声が強かった。さらに大平正芳氏以降は「内閣・自民党合同葬」がほぼ定着していた。

しかし、ある議員から「国葬にした方がいい」と進言され、意を強くしたという。保守派に要請される前に決める必要があった。内閣法制局から「国葬は閣議決定でできる」と



森友、加計学園問題や公文書の改ざん、「桜を見る会」を巡る疑惑など依然解明されていない問題も残る

の見解が示され、首相は決断。会見で安倍氏の首相在任期間が憲政史上最長だったことや、内政、外交面での功績をたたえ、「今秋に国葬儀の形式で葬儀を行う」と表明した。

しかし、国葬を巡っては賛否がある。安倍氏は確かに長期間首相を務め、外交や安全保障、経済分野で功績があり、日米同盟の強化にも尽力した。米国からプリンケン國務長官が追悼のため来日したほか、諸外国からも多くの弔意が寄せられた。

とはいえ森友、加計学園問題や公文書の改ざん、「桜を見る会」を巡る疑惑など依然解明されていない問題も残る。岸田首相が、1週間もたたないうちに国葬を決めたことで、「悲劇の宰相」として神格化し、評価が定まらない閣の部分の解明を閉ざす恐れもある。国葬を決めるので

あれば、その基準をしっかりとくり説明もするべきだ。

奈良の近鉄大和西大寺駅周辺で献花する人々や、増上寺での葬儀、安倍氏の遺体を乗せた車が官邸周辺で最後のお別れをする様子を見守る人の多さを、岸田氏は安倍氏への哀悼の気持ちを代弁するものとして受け止めたのではないか。日本人は優しく情に流されやすい。雰囲気は飲まれて、弔意を強制するようなことがあってはならないだろう。

さらに、山上容疑者の動機が明らかになるにつれ、新たな問題も持ち上がってきた。母親が世界平和統一家庭連合（旧統一教会）に多額の献金をして、家族や自らの人生が破壊されたとしている。団体に恨みを募らせトップを狙ったが果たせず、憎悪の対象を安倍氏に切り替えたという。安倍氏は友好団体の集いにメッセージを寄せており、山上容疑者は「現実世界で最も影響力のあるシンパの1人」と考えて襲撃に及んだ。

銃撃は決して許されるものではないが、宗教と政治との関係の在り方も考えさせられる事件に発展してきた。